指導ポイント＆ヒント
３５課　たしざん・ひきざんとず　②

【内容】（現在数）―（増加数）により元の数を求める計算
　　（現在数）＋（減少数）により元の数を求める計算
【表現】何人かいる　何枚かある　何個かある
【指導ポイント＆ヒント】

・ 初めに何人いたか分からないが、そこに５人来たので 20 人になったという事実から、初めにいた人数を求めるような場面を図で表して解く問題です。例えば、以下のような場面が想定されますが、日常生活ではあまりないので、考え方に慣れるのが大変です。
（例）校庭に何人かの生徒と一人の先生がいて、そこに遠くの方から別の生徒が 5 人走ってやってきた。先生が数えてみたら生徒は全部で 20 人だった、という場面。

・ これこそテープ図の出番。「何人かいます。」と言って始めにいた人数を表すテープを貼ります。そして、「でも何人いるか分かりません。」と付け加えます。「そこに５人来ました。」と言って５人を表すテープを貼り、「そうしたら全部で 20 人になりました。」と言いながら２つのテープの合計に「20 人」と書きます。このようにして、この問題の意味を理解させてからテキストの文章を読ませるとよいでしょう。

・ テキストの1と2では、順を追って問題場面を把握していかせるために「何人かいます。」という現在形で書き始めています。しかし、次に「５人来ました。」という完了形で書かれているので文法にこだわる外国籍の大人の場合は「何人かいる」のが「５人来た」結果なのかと混乱することがありますが、子どもの場合はあまりそのようなことにはこだわりません。

・ もし、こだわるような子がいたら、「子どもがいます。でも遠くて何人か分かりません。」と言い、そのあと間を置いて、「５人来ました。」と言うとよいでしょう。「何人かいる」という現在から、時がしばらくたったという演出をするのです。間を置いてから次の文章を読み始めるようにすると場面が区切られるので、現在形と過去形（厳密には完了形）が入り混じっているという感じがなくなるようです。

・ 3と4では、「りんごが何個かありました。」というように過去形で始め、「10 個食べたので、のこりは 20 個になりました。」というように完了形で続け、「始めにりんごは何個あったのでしょうか。」という過去形で締めくくっています。文法的にはこちらの方がすっきりとしていますが、「何個かありました」という過去の未知数をイメージするのは子どもには難しいようなので、このテキストでは「何個かあります。」という言い方で導入してあります。

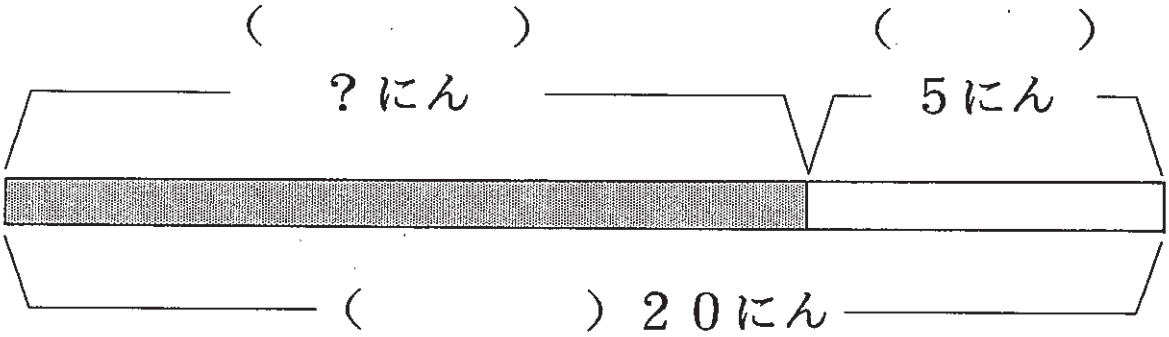
35 たしざん・ひきざんとず ②

（現在数）－（増えた数）により元の数を算出する減法

1

こどもが なんにんか います。
＊こどもが います。でも、なんにんか わかりません。
5にん きたので、ぜんぶで ２０にんに なりました。
はじめ、こどもは なんにん いたのでしょうか。

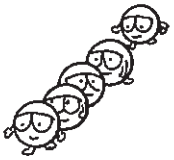
このぶんを ずに しました。



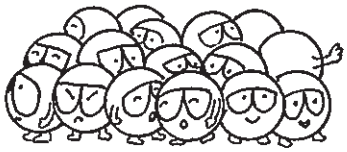
①（　　）に はいる ことばは どれですか。

はじめ　きた　ぜんぶで

②□に はいる かずを かきましょう。



ぜんぶで　きた　はじめ
□－□＝□



③はじめ、こどもは なんにん いましたか。

2

かみが なんまいか あります。

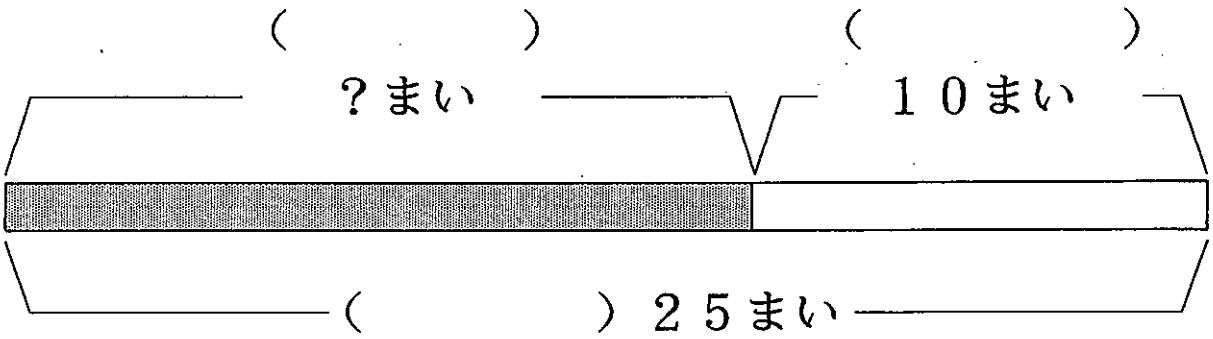
＊かみがあります。でも、なんまいか わかりません。

あとで １０まい もらったので、

ぜんぶで ２５まいに なりました。

はじめ、かみは なんまい あったのでしょうか。

このぶんを ずに しました。



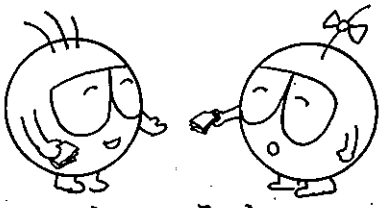
①（　　）に はいる ことばは どれですか。

はじめ　もらった　ぜんぶで

② □ に はいる かずを かきましょう。

ぜんぶで　もらった　はじめ

□ － □ ＝ □

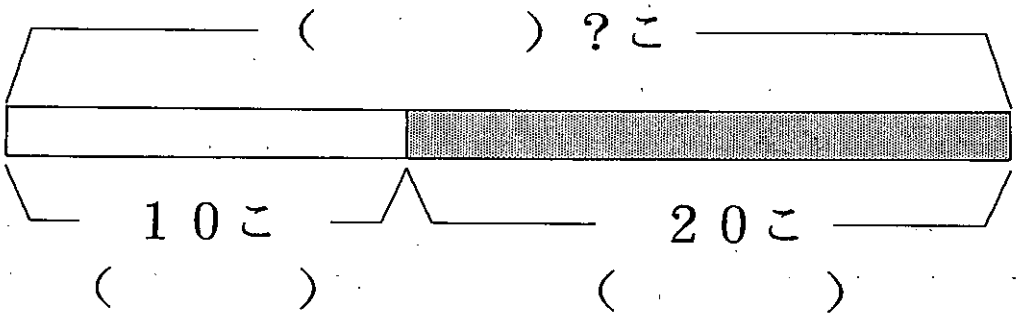


③ はじめ、かみは なんまい あったのでしょうか。

3

りんごが なんこか ありました。
＊りんごが ありました。でも、なんこか わかりません。
１０こ たべたので、
のこりは ２０こに なりました。
はじめ、りんごは なんこ あったのでしょうか。

このぶんを ずに しました。

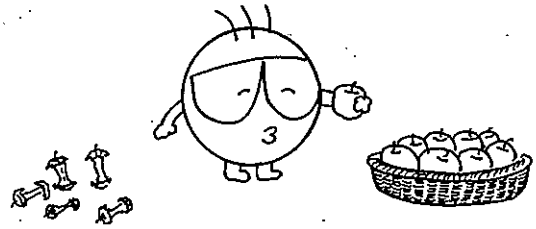


① （　　）に はいる ことばは どれですか。

はじめ　たべた　のこり

② □ に はいる かずを かきましょう。

のこり　たべた　はじめ
□ ＋ □ ＝ □

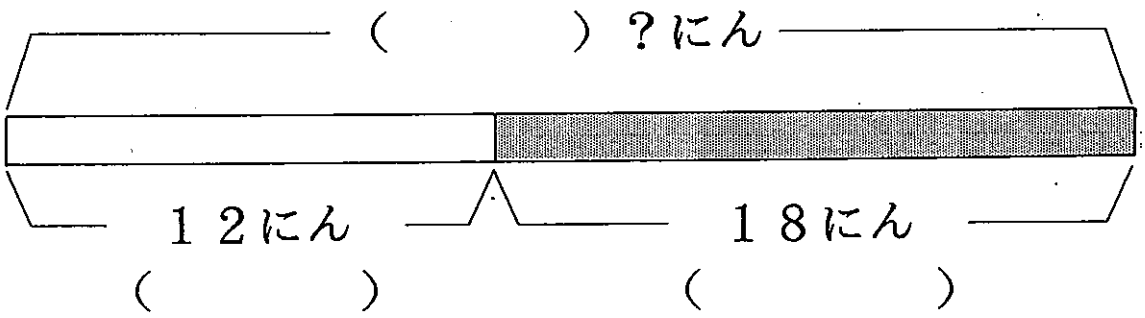


③ はじめ、りんごは なんこ あったのでしょうか。

4

こどもが なんにんか いました。
１２にん かえったので、
のこりは １８にんに なりました。
はじめ、こどもは なんにん いたのでしょうか。

このぶんを ずに しました。



①（　　）に はいる ことばを かきましょう。

②□に はいる かずを かきましょう。

のこり　かえった　はじめ
□＋□＝□

③はじめ、こどもは なんにん いたのでしょうか。